



目次

Total Customer Satisfaction に向かって (石川クラウディア)	1
附属図書館展示会 ＜川とともに生きてきた＞を終えて (秋山晶則)	2
医学部生にはお待たせしました。 情報生活をどうぞ! (入山美智子)	5
平成12年度特別図書一覧	6

Total Customer Satisfaction に向かって

石川 クラウディア

名古屋大学の数少ない外国人教官であり、NUPACE(名古屋大学短期留学交換プログラム)担当の一人として留学生との接触が多いという理由から、「名古屋大学附属図書館に関する印象」という原稿依頼が来たのだろうか。本学も国際化を進めているものの、まだまだ外国人からのフィードバックを積極的に受け入れようとする動きが少ない中での依頼であっただけに、附属図書館のキャンパス・コミュニティへのサービス向上にむけた努力に強く感銘を受けた。

さて、「外国人」としての印象を述べる前に、少しだけ「一般人」としてのそれを言わせていただきたい。まず、ここ2年間において、附属図書館が非常に visible になり、キャンパスにおける存在が大きくなったと感じる。具体的には充実したホームページ及びデザインの行き届いたわかりやすい利用案内パンフレット、また展示会の開催などの PR が挙げられる。そして特に私が感心したのは、附属図書館が去年行った「電子ジャーナルの使い方」という教職員向けのガイダンスである。メールを使って、ペーパーレスなお知らせを大学の全員へ出し、ジャーナルの使い方を教えようという姿勢が印象的だった。附属図書館がクライアントである私たちに自らアクセスしようとしている試みは、図書

館が customer service や satisfaction に向かっていることに疑いをいれない。

では次に、「外国人」としての印象を述べたい。それは図書館のサービス及び大学構成員への outreach が 1,000人を超えている外国人教員・留学生に、どの程度まで届いているかということである。最近、話題になった「デジタル・ディバイド」もさることながら、「言語・ディバイド」という現象が相変わらず存在し続けている。本学の外国人教員や留学生が日本人なみに日本語を理解できることはないから、図書館の日本語を中心としたサービスがどのくらい役に立っているかこころもとないと思うのである。

得手な言語に関わりなく、すべての人が図書館の行う様々なサービスを利用できることが不可欠である。だから附属図書館がインターナショナル・コミュニティに何をすればより良いサービスを提供できるかを考えていただきたい。

以下は少し私の気づくことを掲げてみる。

1. NUPACE 学生(短期留学生)には、年に2回(4月・10月)附属図書館ガイダンスが実施される。このガイダンスは、施設への案内、コンピューターにおける図書検索、データベ-

スにおける検索方法、図書館利用証の取得方法など様々なことが盛り込まれており、非常に有意義である。こういうオリエンテーションを留学生全員と外国人教員にも実施することを推奨したい。

2. 「中央図書館利用案内」という出来の良い発行物がある。だから是非その英語版の作成が必要と思われる。

3. 附属図書館のホームページは大変充実している。研究や学習に欠かせないリンクも多数載せてある。しかしその英語版は、トップページはともかくサブページの多くは日本語中心で、役に立たない。充実した英語版の作成が必要である。

最後に、私が属している NUPACE Office (留学生センター短期留学部門) が短期留学生を対象に、毎年実施しているアンケート調査について触れてみたい。2001年2月に行われたその図書館サービスへの評価結果を見ると、満足度は5.1であり (1 から 7 の評価スケールで、7 が最高点) けっして悪いスコアではない。しかし、「中央図書館や学部・研究科の図書室の機能について改善すべき点を具体的に書いてください」という問に対しては、以下のコメントがあった：

* There should be more books in English at the main library. As an undergraduate student I can keep the books for only two weeks. I would like to have them for at least one month.

* Difficulty is about language, because I don't understand Japanese much. And there are not many English books. A lot of them are old. I hardly found new ones.

* 蛍光灯の数が少ないから目がすぐ疲れました。

* 特に学部で図書館は利用方法とか案内がなかったのが改善が必要です。

本学では附属図書館だけではなく、部局図書館も大きな役割を果たしているの、最後のコメントは注目されるべきであろう。

いろいろ述べてきたけれども、全体としては冒頭に述べたように、附属図書館は自らサービス業であるという認識を確実に持ちつつある。よってクライアントであるわたしたちへのサービスが向上してきている。今後は customer satisfaction から total customer satisfaction へのステップアップを期待したい。

(いしかわ・クラウディア 留学生センター

NUPACE Office (短期留学部門) 教官)

附属図書館展示会 川とともに生きてきた を終えて

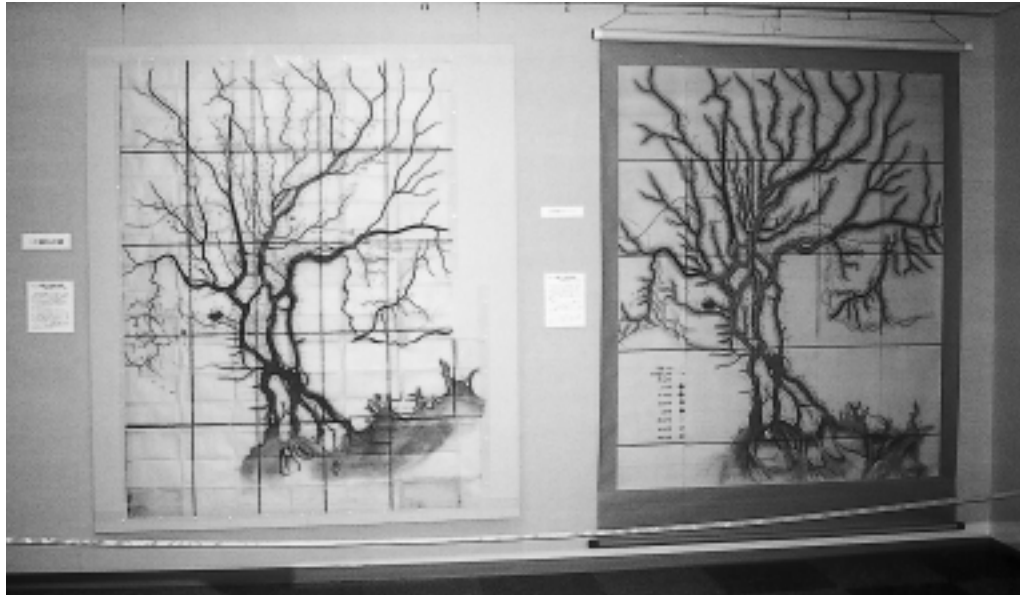
秋山晶則

名古屋大学附属図書館には、ホップズコレクション等の西洋初期刊本や神宮皇学館文庫に代表される和漢古典籍などの貴重書が多数所蔵されているが、地域の視点でみた場合、とりわけ注目されるのが、江戸時代を通じて木曾三川流域の治水を担当し、全国最大規模の治水史料群を残した旗本高木家文書の存在である。その総点数は約8万点と見積もられているが、現在、年代測定総合研究センターを中心とする学内所蔵古文書整理プロジェクトのもと、書状を中心

とする未整理文書の整理・研究が進められている。

附属図書館では、この事業の成果を学内外に広く公開するため、愛知・岐阜・三重の各県教育委員会及び名古屋市教育委員会の後援を得て、2001年3月1日から10日の日程で、「川とともに生きてきた - 高木家文書にみる木曾三川流域の歴史・環境・技術 - 」をテーマとする展示会及び記念講演会を開催した。この企画は、新しく設置された附属図書館展示室のオープニ

ングをかねたもので、会期中は、降雪など悪天候に見舞われる日が多かったにもかかわらず、連日、県内外各地から多数の熱心な見学者を迎えることができた。この場をおかりして、ご協力いただいた関係各位、各機関にお礼を申し述べたい。以下で



は、展示内容の一端を紹介するとともに、アンケートで寄せられた意見なども参考にしながら、今回の展示会をふりかえることにしたい。

対象とした高木家文書については、既に本誌上でも触れたことがあるが（No. 130 / 131）、美濃山間部に居館を構え、交代寄合として大名並の格式を許され参勤交代を行う旗本高木家に伝来した一大文書群である。今回の展示では、整理を終えた文書の中から、文書群全体を代表する治水分野に絞って特徴的な史料を選び、「高木家と木曾三川流域治水」「宝暦治水前後 - 三川分流への挑戦」「輪中に暮らす」の三部構成により、木曾三川流域で川とともに生きてきた人々の足跡をたどることとした。深刻化する地球環境問題を背景に、川という自然と人との関係についても大きな見直しが進められているが、まず何よりも、川と人との関係史をふりかえり、川という自然を理解することが大切であると考えたからである。

実際の展示では、河川管理や工事・訴訟に用いられた絵図原本を多数展示し、そこに含まれる豊かな情報世界から、流域における水害の歴史、河川環境や河川技術の変化などを把握できるよう史料を配列した。中でも、今回修復された大型の木曾三川流域絵図二枚（写真）は、近世段階での自然的条件と社会的条件の複合による大規模水害に対し、人々が三川分流に向かった歴史を刻む史料として、大きな注目を集めていた。なお、展示史料には表題・年号・解説・

翻字などの情報を添えたが、アンケートの回答の中に、解説の用語やフォントサイズへの配慮不足などの指摘があったことは、展示方法の反省点として明記しておかねばならない。なお、この問題に限らず、展示をより充実したものへ改善していくには、十分な準備期間の確保が前提となるが、関係部局や講座にも協力をお願いし、教職員はもとより、学生・院生にも参加を呼びかけて企画立案を行うことも一策であり、教育・研究上にも大きな効果が期待できるのではなかろうか。

次に展示内容であるが、特に意を用いたのが、宝暦治水及び薩摩藩士に関わる事績・歴史意識の再検討である。これは、高木家文書調査室における治水史研究の蓄積と、本学文学研究科の羽賀祥二氏が精力的に進めてこられた治水記念碑研究に触発されたものである。

その一つが、宝暦治水の実像をよりリアルに描くことを目指した点である。1754 - 55年に幕命により薩摩藩の手で実施された宝暦治水は、三川分流という壮大なスケールとともに、膨大な投資と多大な犠牲が払われたことで有名であり、流域を水魔から救った功績が喧伝されてきた。しかし実態は、様々な制約から十分な成果を見ず、かえって水害激化地域を生むなど、地域間矛盾を増幅し、薩摩普請への憎悪すら語られる状況にあった。1938年、流域治水のシンボルとして、宝暦治水を指揮した薩摩藩家老平田靱負を祭神とする治水神社が建立されるが、そ

れに反対する人々がいたことも記憶されねばならない。ここを直視することなくして、宝暦治水の実像、あるいは流域治水の困難性とそれに挑んだ苦闘の歴史に迫ることは困難であろう。

また、流域で共有・再生産されてきた宝暦「薩摩義士」像については、羽賀氏により、1890年、河川改修運動を進める大日本治水協会が刊行した『治水雑誌』第1号において、多数の切腹者を含む薩摩藩士の事績が初めて公表され、これを史実として顕彰運動が展開されていたことが明らかにされている（『歴史学研究』742）。なお、この『治水雑誌』では、薩摩藩士切腹が史料的裏付けを欠くことを吐露した上で、切腹を虚構とみる疑義を払拭するため、傍証として宝暦治水時に自殺した高木家家臣内藤十左衛門に関わる史料（高木家文書）が引用されていた。今回の展示では、この「薩摩義士」像創出と高木家文書の密接な関係を物語る史料として、1890年、大日本治水協会の発起人である山田省三郎が高木家に送った治水史料謄写依頼状をあわせ紹介した。このほか、新たに確認された史料のうち、高木家と協働して流域治水を管掌した美濃郡代（笠松役所）との確執に関わる「スパイ」一件文書など、書状の持つ可能性についても意識的にとりあげ、流域治水史の豊富化を試みた。

こうした展示会の関連企画として、3月2日には記念講演会が催された。秋山晶則「高木家文書整理の現状と課題」、羽賀祥二「川の碑（いしづみ） - 治水と流域の歴史をたどる」、大熊孝「伝統的河川工法の有効性について」、

という三本の講演が行われたが、来聴者が会場内に入りきれないほどの盛況であった。各講演内容は多岐にわたるが、高木家文書に関わる点でいえば、秋山がデジタル化や文書群全体の構造把握を課題設定したほか、羽賀氏からは、宝暦治水をめぐる歴史意識の問題に加え、地域社会文化論を構想するうえでの高木家文書を中核とする自然・歴史・文化資料のコレクション化（「川の文庫」創設）、大熊氏からは、現実的課題との緊張関係をともなった技術史研究（土砂洗掘・堆積問題の解明）等について、それぞれ重要な指摘をいただいた。両講師が示唆された近代史・文化史及び技術史分野での研究は、今後の大きな課題となろう。

なお、今回の展示では、高木家文書に含まれる治水史料の一部を利用したに過ぎず、流域治水史の骨太な流れの開示にも至っていない。また、当該文書群には、治水以外にも家政や領地支配、家臣団編成、幕末維新文書など多彩な内容が含まれており、これらの史料を紹介する機会をぜひとも得たいと考えている。幸い、アンケートには、今後の史料収集・保存・展示公開の継続実施を望む声が多く寄せられ、絵図を含めた電子化の早期実現や史料集の刊行といった要望も出されている。こうした声に応えられるよう、引き続き文書群全体の整理・保存・活用にむけた取り組みを進めて参りたい。

（あきやま・まさのり

年代測定総合研究センター教官）

教官著作寄贈のお願い

平成12年11月に中央図書館の蔵書の充実を図るために、附属図書館長名で各部局長へ教官各位の自著の寄贈をお願いしました。先号に2月までの受贈リストを掲載させていただきました。ご惠贈ありがとうございました。なお、今度は附属図書館のホームページに「中央図書館教官著作新着図書リスト」として掲載の予定です。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

*先号のリスト中、記載漏れ、書誌事項に誤りのあったこととお詫びいたします。（情報管理課資料管理掛）

医学部生にはお待たせしました。情報生活をどうぞ！

入山 美智子

東山キャンパスの学生に比べて医学部のある鶴舞キャンパスの学生のための情報設備環境は劣る印象があります。最近では図書館情報をインターネットで利用することが重要となっていること、また学生側からの要望もあり、この3月に医学部予算で分館に新規パソコン15台を含めた情報関連機器が整備されました。利用目的は

名古屋大学及び他大学等の文献所蔵検索、MEDLINE、PubMed、医学中央雑誌等の文献情報検索、情報メディア教育センターのメール等の利用、電子ジャーナル利用、論文レポート作成利用がメインとなっています。

配置の利用者用パソコンは gw1-8機 (Windows 2000) gw9-11機 (Windows 95) および mc1-9機 (iMac) mc10機 (PowerPC) の21台です。プリンターは Windows 優先 1 台と Mac 優先 1 台に接続しています。新機種には Microsoft Word と Microsoft Excel その他を搭載しています。MO、フロッピー、CD-ROM ドライブを備付しています。紙の節約とプリンターの酷使を避けるため、必要データは持参のディスクに保存してください。貸出用として、ZIP ドライブ、PCカード / Smart Media リードもあります。gw1 では韓国語 (Korean Writer V4) gw2 では中国語 (Chinese Writer V5) gw10 では医薬用英日・日英翻訳ソフト MED-Transer が利用できます。gw10-11 は CD-ROM 利用が優先となります。mc5-6 は所蔵検索と情報検索利用が優先です。その他に CD-ROM 医中誌専用パソコンが 1 台あります。

2 階東閲覧席には情報コンセント 4 口と無線基地局、3 階東閲覧席には情報コンセント 4 口 × 4 と無線基地局を整備しました。これは持参の個人パソコンで利用することになりますが、利用登録が必要ですのでカウンターに申し込んでください。初めて無線カードを使用するときには設定が必要となります。ソフトウェアとマニュアルを貸しますので自分で設定してください。無線カードは自分で備えてもよいですし、

カウンターに貸出用のものも備えています。利用時間は時間外カードで入館した場合も利用できますが、貸出利用のものは開館中のみの利用で閉館30分前までには返却してください。

NICE を利用するものはアクセス記録装置を経由することになります。ネットワークでの不適切な使用があった場合は、該当する通信の記録を必要な範囲で公開することがあります。不適切な使用とは、公の秩序良俗に反する、営利を目的とする、特定の宗教の宣伝布教、誹謗中傷する内容の情報、著作権又は版権の侵害、ネットワークの運用に支障を及ぼす等の不正行為です。教育研究機関の施設として絶対に不正使用があってはなりません。

利用の仕方は、まずメニュー画面から、Internet Explorer を開くと、Medical Student Network の画面になります。ここから医学部図書館ホームページや情報メディア教育センターへとつながります。このページには「かならずお読みください」や「ネットワークの制限事項」がありますので読んでください。学外者はこの設備の利用はできません。mc5-6 で所蔵検索のみの利用に限定されます。

不特定多数の利用者が使うパソコンは壊れやすいものです。無理な操作はしないように。プリンターの紙詰まりで無理に紙を引っ張らないように願います。利用のあとは初期の状態に戻してください。やさしく長持ちするように扱しましょう。機器にトラブルが発生したら連絡用紙に必要事項を記入し提出してください。この設備のメンテナンスには業者委託を予定しております。大きなトラブルが発生すること無く、医学部の学生たちがフル活用できますよう、マナーある利用を期待しております。最後に予算を配慮してくださいました医学部の関係者に感謝いたします。

(いりやま・みちこ

医学部分館情報サービス掛長)

═══════════════════ 平成12年度特別図書（人文・社会科学系）一覧 ════════════════════

Women's Language and Experience, 1500-1940 : Women's Diaries and Related Sources.

Part 1、Part 2 (女性の言語と経験) マイクロフィルム、40 リール

英国の各機関に所蔵する女性史関係資料の集成。パート1がベドフォードシャーとハートフォードシャー、カウンティ・レコード・オフィスの資料から、パート2がバーミンガム中央図書館とバーミンガム大学図書館の資料からのマイクロ版。

国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成 「教育」部門 「教授法・各課教育」分野

マイクロフィルム 第136～165リール

国立国会図書館が所蔵する明治期刊行の教育図書群のうち「教授法・各科教育」分野の図書のマイクロ版。平成7年度からの継続購入。

Loyseau de Mauleon, Alexandre-Jerome : Plaidoyers et memoires Paris, 1758-1767

(モレオン訴訟趣意書) 2巻、オリジナル .

18世紀フランスの代表的な弁護士の一人であるロワゾー・ド・モレオンの訴訟趣意書24編を2巻本に集めたもの。

田中義一関係文書 全26巻

マイクロフィルム、26リール

近代日本研究の基礎資料である田中義一関係文書のマイクロ版。

Documents on education development Latin America, Pacific .

(発展途上国教育総合調査研究公式資料集成) 145 titles on 455 microfiches.

発展途上国の教育に関する調査研究の公式資料集の内、Latin America と Pacific 部分。

Wiener Theaterzeitung, 1806-1860.

(ウィーン演劇新聞) 590 マイクロフィッシュ

1806年から1860年までウィーンで刊行された演劇、芸術、娯楽のための新聞・雑誌集成のマイクロ版。

Early English books. STC I. unit 64

(初期英語書籍集成 1475-1640) マイクロフィルム、15 リール

1475年から 1640年に英国内及び英国外で刊行された英語文献のマイクロ版。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX [国内図書館関係日誌] XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

13.1.25 国立大学附属図書館事務部長会議 (於 : 徳島大学) 出席者 : 田村事務部長

13.2.15 ~ 2.16 平成12年度大学図書館情報化促進会議 (於 : 国立情報学研究所)
出席者 : 岡本システム管理掛長

13.2.20 ~ 2.21 NACSIS-CAT/ILL 講習会担当者会議 (於 : 国立情報学研究所)
出席者 : 高橋情報システム課図書館専門員

- 13.2.26～2.27 総合目録データベース品質管理会議（於：国立情報学研究所）
出席者：堀図書情報掛長
- 13.3.1～3.2 NACSIS-IR 地域利用説明会担当者会議（於：国立情報学研究所）
出席者：加藤情報管理課課長補佐

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●● [学内動向] < H13.1.6-4.5 > ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

- | | |
|--|--|
| <p>会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12-4回電子図書館推進委員会 <1.11> ・第12-4回蔵書整備委員会 <1.11> ・第12-6回図書館システム検討委員会 <1.23> ・第12-5回商議員会 <1.26> <ul style="list-style-type: none"> ・次期附属図書館医学部分館長の選考について ・名古屋大学附属図書館商議員会規程について ・名古屋大学附属図書館長候補者推薦内規の一部改正について ・名古屋大学附属図書館複写料金徴収猶予実施細則の一部改正について ・平成14年度概算要求事項について ・平成13年度図書資料（大型コレクション）収書計画について ・附属図書館研究開発室について ・名古屋大学全学計画評価委員会規程（案）について ・その他 ・第12-9回学術情報事務会議 <2.2> ・第12-6回附属図書館商議員会 <2.19> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学附属図書館商議員会規程の一部改正について ・第12-7回附属図書館商議員会 <2.19> <ul style="list-style-type: none"> ・附属図書館研究開発室の教官欠員の流用申請の変更について ・第12-10回学術情報事務会議 <2.23> ・第12-5回電子図書館推進委員会 <3.2> ・第12-5回蔵書整備委員会 <3.2> ・第12-8回附属図書館商議員会 <3.5> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学附属図書館複写規程の一部改正について ・名古屋大学附属図書館文献複写料金徴収猶予実施細則の一部改正について ・第12-9回附属図書館商議員会 <3.14> | <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学附属図書館一般市民利用内規の制定について ・平成13年度自然科学系特別図書収書計画について ・附属図書館研究開発室について ・概算要求について ・平成13年度電子図書館推進委員会専門委員について ・重複雑誌の調整のための基本原則について <p>展示会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12-11回学術情報事務会議 <3.28> <ul style="list-style-type: none"> ・平成12年度附属図書館展示会「川とともに生きてきた - 高木家文書にみる木曾三川流域の歴史・環境・技術 - 」 <3.1～3.10>（於：名古屋大学） ・平成13年度春季附属図書館所蔵貴重資料展示会 <4.5～4.27>（於：名古屋大学） <ul style="list-style-type: none"> 研修会・講習会等への参加 ・平成12年度第1回東海地区大学図書館協議会研修会（於：愛知教育大学） <1.18> 参加者：伊藤義人、加藤信哉、平井芳美（以上中）、澤口由好（法）、竹内佐知子（農）、岡美江（国際） ・平成12年度附属図書館展示会記念講演会「川とともに生きてきた - 高木家文書にみる木曾三川流域の歴史・環境・技術 - 」 <3.2>（於：名古屋大学）参加者：150名 ・第1回 AIEJ / ユネスコ青年交流信託基金国際交流担当者プログラム（於：大韓民国：木浦大学、教育部、国際教育振興院） <3.5～3.18> 参加者：小林祐二（中） ・平成12年度第2回東海地区大学図書館協議会研修会（於：名古屋大学） <3.9> 参加者：17名 ・平成12年度学術雑誌目次速報データベースに関する連絡会議（於：国立情報学研究所） |
|--|--|

- <3.14> 参加者：岡美江（国際）
- ・名古屋大学図書系職員研修会（於：名古屋大学）<3.23> 参加者：47名
- 人物往来
- <ご多幸を祈ります> - 退職された人 -
- 横田佳子（情報管理課会計掛長）3.31
 - 愛場美和子（情報サービス課閲覧掛）3.31
 - 北野千春（情報システム課図書情報掛）3.31
- <ご健闘を期待します> - 他機関に転任になった人 -
- 田村潤二（東京大学附属図書館事務部長）4.1（事務部長から）
 - 中井えり子（山梨医科大学教務部図書課長）4.1（情報サービス課図書館専門員から）
 - 井道哲志（豊橋技術科学大学教務部研究協力課専門職員）4.1（情報管理課庶務掛から）
 - 山本利幸（岡崎国立共同研究機構総務部庶務課情報整理係長）4.1（情報システム課図書情報掛から）
- <はじめまして> - 他機関から転任になった人 -
- 吉田純子（事務部長）4.1（埼玉大学附属図書館事務部長から）
 - 澄川千賀子（情報システム課雑誌掛長）4.1（岡崎国立共同研究機構総務部庶務課情報整理係長から）
 - 峯岸ななえ（情報システム課図書情報掛）4.1（群馬大学附属図書館工学部分館から）
- <はじめまして> - 新しく採用された人 -
- 飛田美穂（情報サービス課閲覧掛）4.1
 - 白神由美子（情報システム課図書情報掛）4.1
 - 渡辺暢子（医学部分館保健学情報掛）4.1
- <これからもよろしく> - 配置換（昇任）になった人 -
- 高橋律子（情報サービス課図書館専門員）4.1（情報システム課図書館専門員から）
 - 藪本大明（情報システム課図書館専門員）4.1（情報システム課雑誌掛長から）
 - 鈴木誠（情報管理課会計掛長）4.1（情報文化学部・人間情報学研究科会計掛長から）
 - 中島孝司（情報システム課図書情報掛長）4.1（工学部・工学研究科総務課図書掛長から）

- 角三由美恵（情報管理課庶務掛主任）4.1（理学部・理学研究科・多元数理科学研究科庶務掛主任から）
 - 竹内佐知子（情報サービス課参考調査掛）4.1（農学部・生命農学研究科図書掛から）
 - 堀茂（医学部分館情報管理掛長）4.1（情報システム課図書情報掛長から）
 - 杉浦司（法学部・法学研究科図書掛長）4.1（医学部分館図書情報掛長から）
 - 高橋知恵子（工学部・工学研究科総務課図書掛長）4.1（法学部・法学研究科図書掛長から）
 - 戸倉千恵子（工学部・工学研究科総務課図書掛）4.1（工学部・工学研究科材料図書室から）
 - 坪并能里子（情報文化学部・人間情報学研究科図書掛）4.1（農学部・生命農学研究科図書掛から）
 - 夏目弥生子（農学部・生命農学研究科図書掛）4.1（情報サービス課参考調査掛から）
 - 豊岡曜子（農学部・生命農学研究科図書掛）4.1（情報文化学部・人間情報学研究科図書掛から）
- 規程改正など
- ・名古屋大学附属図書館長候補者推薦内規（13.4.1改正）
 - ・名古屋大学附属図書館商議員会規程（13.4.1改正）
 - ・名古屋大学附属図書館複写規程（13.4.1改正）
 - ・名古屋大学附属図書館文献複写料金徴収猶予実施細則（13.4.1改正）
 - ・名古屋大学附属図書館医学部分館保健学情報資料室利用細則（13.4.1施行）
- 部局動向
- ・図書室名称変更 <4.1>（旧）大気水圏科学研究所（新）地球水循環研究センター

編集委員会

- 玉木茂（委員長）加藤信哉（中）小林恵子（中）小林祐二（中）加納俊彦（経）藪本佳壽子（育）大嶋寛子（医）斉木敏郎（工）